

被服生活の実態について (第3報)

小林 孝子

On the Actual Conditions of Clothing Habits (3)

Takako Kobayashi

I. は し が き

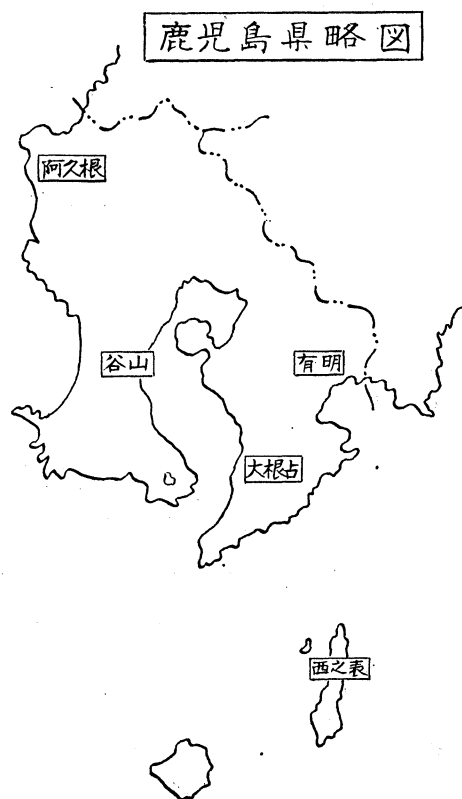
昭和39年度の国民生活白書¹⁾は、国民の所得水準の上昇とともに国民生活の地域格差の縮小を報じている。また衣生活においては、被服が元来寒さをしのぐためのものであることからすれば、寒冷地における被服が温暖地におけるよりも多いのは当然といえるが、所得水準がのぼれば、その割合以上に被服費は増加するという性質上、地域別被服費の動向は単に気象条件のちがいはばかりでなく、地域の所得水準に影響されると報じている。

私は、生活の地域差は縮小しつつも南北に長い日本列島の最南端であって高温であるという地理的、気象的条件を有する南日本地方の被服生活の実態をはあくして、この地方における家庭科教育に資するため、その調査を続けているものである。すでに第1報²⁾、第2報³⁾で鹿児島、沖縄地方の被服生活の実態について報告したが、さらに今回は鹿児島県の次の5地区について前回と同様の調査を行ったのでその結果を報告する。

ただし既報^{2) 3)}では、生活革新の要素である家事労働合理化の一つとしての既製品の普及率と、生活の洋風化の一つとしての衣服の様式の面から報告してきたが、今回はその面をさらに細かに分析するために、既製品の普及に関して和服類・洋服類のみをとり出し、その製作について検討したので報告する。

II. 調査について

1. 調査時期 昭和39年7月～8月
2. 調査地区 阿久根市・谷山市・有明町・大根占町および種子島の西之表市の5地区
(図1参照)
3. 調査事項 被服の既製品の普及率・日常着と外出着の様式・その他10数項
4. 調査方法 調査用紙を5地区の高等学校長宛に郵送し、学校を通して生徒に配布し、生徒の各家庭で記入してもらったものを学校で回収、返送してもらったもの
回収率は76%でその内訳は阿久根70・谷山81・有明82・大根占55・西之表85%



Ⅲ. 調査結果

A. 調査対象の構成について

1. 地域別

表1は調査対象を地域別にみたものである。表1にみられるとおり5つの地区とも15%~23%の間にある。

表1 地域別にみた調査対象 (%)

計	阿久根	谷山	有明	大根占	西之表
100	19	21	22	15	23

2. 家族の主な職業別

表2は調査対象を家族の主な職業別にみたものである。

表2 家族の主な職業別にみた調査対象 (%)

	計	阿久根	谷山	有明	大根占	西之表
計	100	100	100	100	100	100
農業	62	83	19	68	60	84
漁業	2	1	3	1	5	2
商業	8	—	16	7	13	2
工業	6	1	16	2	7	2
会社員	5	6	14	5	—	1
公務員	11	8	17	13	11	7
教員	1	—	2	2	—	—
自由業	1	—	2	—	2	—
無職	1	—	4	—	—	—
その他	1	1	1	—	2	—
不明	2	—	6	—	—	2

この表にみられるとおりに、農家が過半数でもっとも多くなっている。

3. 筆頭者の学歴別

表3は調査対象を筆頭者の学歴別にみたものである。

表3 筆頭者の学歴別にみた調査対象 (%)

学 歴 別	計	阿久根	谷 山	有 明	大根占	西之表
計	100	100	100	100	100	100
大 卒*1	3	—	6	5	2	—
中 卒*2	24	16	32	21	15	33
小 卒*3	33	56	33	20	27	29
不 明	40	28	29	54	56	38

*1 大卒は旧制専門学校以上卒

*2 中卒は旧制中学校卒

*3 小卒は旧制の尋常・高等小学校卒

表3によると小卒が1/3でもっとも多く占めている。

4. 収 入 別

表4は調査対象を収入別にみたものである。この表にみられるとおりに、50~60万は20%、全国平均を上廻るものは約10%である。

表4 収入別にみた調査対象 (%)

収 入 別	計	阿久根	谷 山	有 明	大根占	西之表
計 万円	100	100	100	100	100	100
10>	1	1	1	1	—	2
10<	4	12	—	2	5	—
20<	7	12	2	6	13	2
30<	8	13	6	5	5	11
40<	12	11	9	16	9	13
50<	14	11	15	16	13	14
60<	6	6	10	1	5	9
70<	4	3	9	4	2	4
80<	3	3	2	4	2	4
90<	tr.	—	—	—	—	1
100<	4	4	6	2	2	4
不 明	37	24	40	43	44	36

B. 洋服と和服の製作について

以上のような対象の各家庭で成年男女・子供・赤ちゃんの下着類・和服類・洋服類を新調するのに、どの方法によるかを度数で示したのが表5である。

表 5 下着・和服・洋服の製作について

		成年男子	成年女子	子 供	赤ちゃん
下 着	計	230	290	245	68
	家で作る	9	16	12	29
	仕立をたのむ	1	7	1	1
	既製品を買う	220	267	232	38
和 服	計	195	279	227	66
	家で作る	92	98	137	39
	仕立をたのむ	58	131	35	7
	既製品を買う	45	50	55	20
洋 服	計	228	305	287	67
	家で作る	3	33	31	13
	仕立をたのむ	89	138	29	3
	既製品を買う	136	134	227	51

表5から洋服と和服を取り出して、その製作方法を調べることにする。

1. 成年男女・子供・赤ちゃんとの関係

成年男子・成年女子・子供・赤ちゃんの間にどのような差があるかを調べるために、表6・表7のような分割表をつくる。

1) 洋 服

表6は洋服についてである。

表 6 洋 服

	成年男子	成年女子	子 供	赤ちゃん	計
家で作る	3 (21)	33 (28)	31 (26)	13 (5)	80
仕立をたのむ	89 (67)	138 (90)	29 (84)	3 (18)	259
既製品を買う	136 (140)	134 (187)	227 (177)	51 (44)	548
計	228	305	287	67	887

以下()内は理論度数である。 χ^2 検定すれば有意水準0.01に対して有意である。

表6によると洋服は成年男子の場合は仕立をたのむことが多く、成年女子の場合は既製品を買うことが少なく、仕立をたのむことが多い。また子供・赤ちゃんでは既製品を買うまた家で作る傾向が強い。

2) 和 服

表7は和服についてである。

表 7 和 服

	成年男子	成年女子	子 供	赤 ち ゃ ん	計
家で作る	92 (93)	98 (133)	137 (109)	39 (31)	366
仕立をたのむ	58 (59)	131 (84)	35 (68)	7 (20)	231
既製品を買う	45 (43)	50 (62)	55 (50)	20 (15)	170
計	195	279	227	66	767

有意水準 0.01 に対して有意である。

表7によると、和服は成年女子の場合は他に比べて仕立をたのむが多く、子供では家で作り、赤ちゃんの場合は家で作り、また既製品を買うことが多い。

2. 成年男女・子供・赤ちゃん各々の場合

なお、以上のことを細かく分析するために成年男子・成年女子・子供・赤ちゃんの各場合について、家で作る・仕立をたのむ・既製品を買うの間に差があるかどうかを調べる。表8-1から表8-4は洋服、表9-1から表9-4は和服である。

1) 成年男子の洋服

成年男子の洋服については表8-1のとおりである。すなわち既製品を買う、これについて仕立をたのむが多く、家で作るが少ない。

表8-1 成年男子の洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
3 (76)	89 (76)	136 (76)	228

以下()内は理論度数である。

有意水準 0.01 で χ^2 検定によれば有意となる。

2) 成年女子の洋服

成年女子の洋服については表8-2のとおりである。すなわち仕立をたのむ・既製品を買うが多く、家で作るが少ない。

表8-2 成年女子の洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
33 (101)	138 (102)	134 (102)	305

有意水準 0.01 で有意

3) 子供の洋服

子供の洋服については表8-3のとおりである。すなわち既製品を買うが多く、仕立をたのむ・家で作るが少ない。

表8-3 子供の洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
31 (95)	29 (96)	227 (96)	287

有意水準 0.01 で有意

4) 赤ちゃんの洋服

赤ちゃんの洋服については表8-4のとおりである。すなわち仕立をたのむは殆どなく、家で作るも少なく、既製品を買うが多い。

表8-4 赤ちゃんの洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
13 (22)	3 (22)	51 (23)	67

有意水準 0.01 で有意

5) 成年男子の和服

表9-1は成年男子の和服の場合である。すなわち既製品を買うは少なく、家で作るが多い。

表9-1 成年男子の和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
92 (65)	58 (65)	45 (65)	195

有意水準 0.01 で有意

6) 成年女子の和服

表9-2は成年女子の和服の場合である。すなわち仕立をたのむが多くまた家で作るが既製品を買うは少ない。

表9-2 成年女子の和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
98 (93)	131 (93)	50 (93)	279

有意水準 0.01 で有意

7) 子供の和服

表9-3は子供の和服の場合である。すなわち仕立をたのむ・既製品を買うは少なく、家で作るが多い。

表9-3 子供の和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
137 (75)	35 (76)	55 (76)	227

有意水準 0.01 で有意

8) 赤ちゃんの和服

表9-4は赤ちゃんの和服の場合である。すなわち仕立をたのむは少なく、家で作るが多い。

表9-4 赤ちゃんの和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
39 (22)	7 (22)	20 (22)	66

有意水準 0.01 で有意

IV. む す び

以上みてきたように、洋服と和服の製作については着用者の年令・性別によっていくらかのちがいがみられた。洋服と和服に関しては家屋の構造、経済上の問題など多面の関係が考えられるので、この点については今後研究を進めたい。

なお、本調査は鹿児島の数地区についての調査であって、これでもって鹿児島県の被服生活の実態を云々することは早計であると思うので、今後調査対象をいろいろにかえて同様の調査を継続したいと思う。

本稿は昭和40年第17回日本家政学会総会で発表したものの一部である。

終りに、この調査をお願いした各高等学校長先生並びに家庭科担当の先生方に深く感謝します。

参 考 文 献

- 1) 経済企画庁編，“国民生活白書”，昭和39年度版，130（昭40，1965）。
- 2) 小林孝子，“被服生活の実態について 第1報”，“日本家庭科教育学会誌”，5，75（昭39，1964）。
- 3) 小林孝子，“被服生活の実態について 第2報”，“日本家庭科教育学会誌”，6，46（昭40，1965）。

Summary

According to the investigations concerning the making of clothes, made of the five areas in Kagoshima Prefecture: Akune-shi, Taniyama-shi, Ariake-cho, Ōnejime-cho, and Nishi-noomote-shi of Tanega Shima; the results are as the following:

Regarding the foreign clothes of men, children, and babies, most numerous were the answers saying that they were bought ready-made; while concerning those of women, the answers were most numerous replying that they were got made by sewing women, or were bought ready-made.

Regarding the Japanese clothes of men, children, and babies, most numerous were the answers saying that they were homemade; while concerning those of women, the answers were most numerous replying that they were got made by sewing women, and next to them numerous were the answers saying that they were homemade.